

## 国の政策への対応

- 令和2年度からの国の第2期地方創生への取り組みに合わせた、人口減少への歯止めや移住・定住に向けた継続的な市の施策の推進

## 国・県事業促進への働き掛け

### 国の事業

- 津松阪港区域の海岸堤防整備(三重とこわか国体ビーチバレーボールのリハーサル大会に合わせた阿漕浦・御殿場工区の工事完了、栗真町屋工区の本体工事、栗真工区の早期工事着手)



- 中勢バイパスの渋滞と混雑に伴う追突事故の防止策として実施された市内3カ所の4車線化に続く長岡宮ノ前交差点付近の工事の早期完了
- 雲出川水系河川整備計画に基づく本川中流部の河道掘削・堤防整備、雲出古川両岸の堤防整備の早期完了

### 県の事業

- 大規模特定河川事業に採択された相川の新相川橋架け替え
- 上野・白塚地区の海岸堤防および志登茂川の河川堤防のかさ上げ工事の加速化、白塚漁港海岸堤防の白塚工区の迅速な整備と河芸工区の早期事業着手
- 中ノ川、田中川、志登茂川、安濃川、岩田川、相川の河川改修やしゅんせつ
- 令和4年3月の工事完了に向けた香良洲橋架け替え工事
- 一志美杉線の室ノロバイパス・室ノロから矢頭トンネル、国道163号の片田バイパス、亀山安濃線の高野尾バイパス、国道368号の下太郎生・奥立川工区などの道路整備、横断歩道等交通規制標示などの修繕および通学路の交通安全対策

## 市民の安全・安心、新たな活力創出予算

令和2年度の予算は「**市民の安全・安心、新たな活力創出予算**」としました。

新たな市政運営の転換局面を迎え、市民の安全・安心を守りつつ、人口減少社会においても、まちとしての新たな活力を生み出していくための予算として編成し、一般会計当初予算額は、前年度比50億円減の1,096億6,000万円としました。

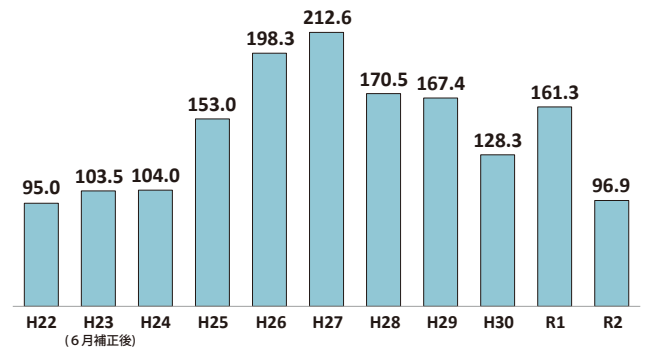
## 編成のポイント

### 【歳出】

普通建設事業費は平成23年度に100億円を上回って以降、平成27年度には合併後最大の213億円となるなど、平均で155億円を合併時に描いたまちづくりに投じてきた集中投資期間が終了したことで、100億円を下回る平成22年度と同規模の96億9,000万円となりましたが、市民生活に関わる重要なインフラ整備については増額計上しています。会計年度任用職員制度の創設により、人件費は234億9,000万円で前年度比15.4%の増となる一方、物件費は174億7,000万円で前年度比13.5%の減。補助費等については、三重とこわか国体リハーサル大会の開催などに伴い、前年度比25.5%増の61億6,000万円となりました。

### 普通建設事業費の推移

(億円)



### 【歳入】

市税は、前年度比1.3%増の414億3,000万円、地方交付税は、地方財政計画および最終年度となる普通交付税の合併特例措置を踏まえ、前年度同額の180億円、市債は、臨時財政対策債を29億5,000万円、合併特例事業債は前年度比70.0%の減となる23億7,000万円とし、全体で43.8%の減となる79億2,000万円を計上。公債費の償還に充当する減債基金など、特定目的基金を16億円取り崩したほか、収益増が見込まれるモーターボート競走事業会計から20億円を繰り入れた結果、財政調整基金の取り崩しを前年度比44.8%減の36億8,000万円にとどめることができました。

## 市民の幸せな暮らしがさらに広がる市政

新たな局面を歩んでいく津市の未来に、明るい期待感を持っていただけるよう、**市民の幸せな暮らしがさらに広がる市政を展開**してまいります。

この原動力となるのは、**対話と連携による徹底した現場主義**です。これまで以上に現場へ積極的に出向き、市民の皆さまの望みや願いを的確に捉え、現状や課題に真摯に向き合い、知恵を絞って一つ一つの施策にスピード感を持って取り組むことを、全職員が一丸となって進めてまいります。